

機関番号：16301
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20590512
 研究課題名（和文） 研修医における処置時の感染防御とその行動に影響する因子に対する検討
 研究課題名（英文） Examination for a factor influencing phylaxis at the time of treatment in a resident and the action
 研究代表者
 高田 清式（TAKADA KIYONORI）
 愛媛大学・医学部附属病院・教授
 研究者番号：80197102

研究成果の概要（和文）：院内感染の理解を深めることを目的に研修医における処置時の手袋着用状況と白衣の汚染状況を調査した。当大学病院での研修医に焦点をあて、感染教育により向上するかどうかを年次的に検討した。手袋着用率が平成20年度の59.6%に比べ、平成22年度は63.8%であり、白衣のMRSA汚染も平成20年度に2例検出されたが以後は検出されなかった。感染対策の実践において感染教育にて年次的に幾分の改善傾向が示されたと考える。

研究成果の概要（英文）：We investigated the gloves wearing situation at the time of treatment in a resident and the pollution situation of a white robe for the purpose of deepening understanding of nosocomial infection.

We assigned a focus to a resident in our university hospital and reviewed whether we improved by infection education for annual. Gloves wearing rate was 63.8% in comparison with 59.6% of 2008 in 2010, and it was detected 2 examples in 2008, but MRSA pollution of a white robe was not detected afterward, too.

We think that an improvement tendency of several minutes was shown by infection education in practice of an anti-infection measure for annual.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：感染症学

科研費の分科・細目：医療社会学

キーワード：研修医、感染教育

1. 研究開始当初の背景

医療従事者は感染のリスクを極力少なくするために、疾患に応じた適切な感染予防策

（標準予防策および疾患ごとの予防策）をとる必要があるが、その一つである接触感染における手袋着用という予防策が多く医療

従事者間で十分な共通行動になっていないとの報告が従来から見受けられる。いまだ手袋着用が充分適正になされていない現状を把握し、かつその向上に関する検討を本研究では行ってみたいと考える。またこのような調査は、主に看護師を対象にアンケート調査などで行われていることがあるが（渡部他：Infection Control 12；449-454, 2003）、研修医を対象にした実践的な調査はほとんど行われていない。

2. 研究の目的

今回の研究が研修医を含めた院内感染の実情把握に繋がる意義のあるものと考えられる。研修医各自の白衣の細菌汚染状況を把握することは研修医自身の接触感染などの感染症に対する自覚を促すことに繋がると考えられ併せて白衣の汚染状況の研究を行いたいと考える。

以上のように研修医における処置時の手袋着用状況と白衣の汚染状況を調査し、さらに手袋着用基準に対する理解度の現状調査を行うことにより、若手医療従事者の感染に対する意識の現状把握及び若手医療従事者に院内感染に関する理解を深めさせることを目的とする。

3. 研究の方法

病棟にて研修医が患者に対し、1) 血液に関する処置（採血・注射・創部の処置など）や2) 体液・分泌物に関連する処置（口腔処置やドレーン処置など）を実施する際に、各研修医に同行し、処置ごとの手袋の使用状況

を観察する（研修医および患者には了解を得た上で観察）。また、観察後に、研修医に手袋着用または未着用の判断基準についてインタビューを行う。インタビューに関しては、手袋着用理由や手袋未着用理由をその際の手袋の状況で質問することとする。各研修医が各処置を行うごとに観察し研修中である数十名の研修医のうち大半において行う。

また、各研修医の白衣の汚染状況の調査として各自の白衣をスクリーニングとして細菌塗抹・培養検査を行う。さらに、手袋の装着率、白衣の汚染状況について徹底した感染教育を行いつつ年次的に調査を行い、それらの改善度の有無（年次的変化）について検討し、感染教育の意義についても確認する。

4. 研究成果

感染対策に関して、研修医自身の実行性に関する調査として研修医の手袋着用率を、平成 20 年度より各年にわたり各研修医に同行し、処置ごとの手袋の使用状況を観察するとともにインタビューにて調査した。その結果、平成 20 年度の 59.6%（34 名調査）に比べ、平成 22 年度は 63.8%（35 名調査）であり、研修医の感染対策の実践についても幾分の改善傾向が示された（表 1）。

さらに平成 22 年度までは感染教育を各年度徹底・実践しつつ各研修医の白衣から細菌培養を行ったところ、ブドウ球菌の検出は平成 20 年度 4 名（34 名のうち）、平成 21 年度 5 名（39 名のうち）、平成 22 年度 3 名（35 名のうち）であり、そのうち平成 20 年度には 2 名にMRSAが検出されたが、平成 21、22

年度は検出されなかった（表2）。また白衣に関しては、同じものを長期に着用せず積極的に交換することを勧めている背景のもと各研修医の平均着衣日数を調査したところ、平成20年度6日、平成21年度4.6日、平成22年度5.5日間の着衣継続状況であった（表3）。このように、MRSAの検出、白衣の着衣日数などはこの研究を通じて感染教育を徹底した効果が幾分は表れたと考えられた。

研修医に対しては昨今このような院内感染の実践部分での検討・研究はまだ充分には行われていないのが現状であるため、このような感染予防の調査・研究は、研修医自身の感染症に対する自覚を促すことにも繋がる観点からも有意義であり、この調査および結果を機会にさらに綿密な院内感染の実践教育を行う必要がある。

表3. 研修医の平均着衣日数調査
(平成20、21、22年度・アンケート調査)

着用日数 年度	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	>10日
平成 20年度	4	5	9	8	3	4
平成 21年度	13	8	13	1	1	3
平成 22年度	8	6	7	8	4	2

白衣着用日数：平成20年度 6.0日
平成21年度 4.6日
平成22年度 5.5日

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

1. 田中亮裕、渡邊真一、高田清式、相引眞幸、安川正貴、荒木博陽抗 MRSA 薬使用量に及ぼす感染制御部による介入の影響、医療薬学、36 : 232-239、2010、査読有

[学会発表] (計5件)

1. 高田清式、愛媛大学医学部附属病院における研修医の院内感染について、第80回日本感染症学会西日本地方会、平成22年11月20日、松山市総合コミュニティセンター、松山市

2. 高田清式、愛媛大学医学部附属病院における研修医の院内感染の現況、第42回日本医学教育学会、平成22年7月30日、東京都市センター、東京都

3. 高田清式、愛媛大学医学部附属病院における研修医の針刺し事故・院内感染予防対策の現況、第41回日本医学教育学会、平成21年7月25日、大阪国際交流センター、大阪

表2. 白衣の細菌検出状況

	黄色ブドウ球菌	CNS	緑膿菌	腸球菌	Enterococcus
平成20年 34名	MSSA 2 MRSA 2	31	1	1	7/1
平成21年 39名	MSSA 5 MRSA 0	28	0	0	5/8
平成22年 35名	MSSA 3 MRSA 0	28	0	0	4/7

4. 高田清式、当院における研修医の針刺し事故予防対策の現況、第83回日本感染症学会、平成21年4月24日、東京京王プラザホテル、東京都

5. 高田清式、針刺し事故などの院内感染予防に取り組む研修医の姿、第78回日本感染症学会西日本地方会学術集会、平成20年12月5日、広島国際会議場、広島市

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高田 清式 (TAKADA KIYONORI)

愛媛大学・医学部附属病院・教授

研究者番号：80197102